

アンケートへの返答（令和4年5月～8月）

【アンケート設問】

- Q1. 概要説明（経緯、方向性等）の理解度 【理解できた ⇔ 分からない】
- ・現状、課題 ・検討委員会の検討、視点 ・教育委員会での検討 ・学校規模最適化基本方針 ・義務教育学校とは
 - ・全体の流れ、今後のスケジュール
- Q2. Q1で「分からない」と選択したものの、具体的な内容
- Q3. もっと詳しく聞きたい内容
- Q4. その他意見

【アンケート回収状況、返答内容等】

56件の回答をいただきました（用紙、Logo フォーム）。ありがとうございました。返答内容が重複すると思われるものは記述を割愛していますのでご了承ください。

	該当設問	記述内容（原文） （説明機会、年代、所属）	教育委員会の返答
1	Q4	早く設置する場所を決定してほしい。 教育内容、職員構成が気になる。 （説明会、50代、学校職員）	設置場所については、今（令和4）年度に策定する基本構想・基本計画の中で決定する予定です。 教育内容は、令和5年度以降、準備委員会の中で協議していきます。職員構成は、小学校及び中学校の基準でそれぞれ配置される職員数を合わせた人数が基本となります。
2	Q3	学校の大きさ、広さ、グラウンド、体育館、プールなど、どうなるのか？ 旧校舎はどうなるのか、解体？ （説明会、40代、～6歳児・小・中保護者）	施設規模等の概要については、基本構想・基本計画の中で検討します。 旧校舎の扱いは、施設整備の方向性で変わります。大規模改修で対応する場合は小中いずれかが、新築で対応する場合は小中両方の校舎が不要となります。準備委員会の中で残存校舎等の利活用や利用廃止等についても検討していきます。
3	Q4	地域で子どもの社会体育をしているのですが、その辺の意見もくみ上げれないか？準備委員会に入る？ （説明会、40代、～6歳児・小・中保護者）	準備委員会の委員として、保小中の保護者や地域（自治振興区や区長会）から選出いただきます。社会体育関係者から委員に加わっていただく予定はありませんが、詳細事項は、準備委員会の中に部会を設けて協議していく予定ですので、ご意見をいただければと思います。
4	Q4	交通の便が良い、大平地区に開設してほしい。 （説明会、40代、小・中保護者）	諸条件を考慮して場所の選定を行います。
5	Q4	義務教育学校設立へ舵を切ったことに大変感謝します。矢部、清和、蘇陽の3中統合は絶対にイヤだったので。 （説明会、40代、中学生保護者）	ご意見ありがとうございます。
6	Q3	設置する場所は、各地区でだいたい決まっていますか。 （資料配布、30代、～6歳児・小学生保護者）	清和地区における設置場所は、本年度に決定する予定です。他地区は、現時点で未定です。
7	Q3	従来取り組み始めた校区を越えた進学先の選択がどう出るか心配。大野、川井野あたりは清和に進みたいのでは？ （説明会、60代～、一般）	住所に基づき指定する学校区域の学校に就学いただくのが原則ですが、各保護者において個別の事情や希望がありましたら教育委員会（学校教育課）にご相談ください。
8	Q4	地域の拠点であるもの、複合的な学校施設であることを望む。役場、図書館、老人憩いの家、保育園、学童保育。 （説明会、60代～、一般）	敷地の広さや予算の都合もありますが、既存施設の改廃も関係してくるため、学校開設時に全て調整しておくことは困難だと思います。しかし、施設整備の検討に際し、将来を見据えて地域活性化や魅力向上について検討することは重要だと考えます。
9	Q4	保育園も導入。 （説明会、20代、不明）	園舎の状況等にもよりますが、更新する場合は学校に併設する形での設置も検討対象になると考えます。今後園舎の更新等の検討に際しては、関係課連携して協議を進めます。
10	Q4	蘇陽小は、2～3年先には複式学級ができ、その後、児童数が急激に減少していくので、早目の教育学校の開設を望みます。 （説明会、60代～、一般）	学校を取り巻く状況を全町的な視野で捉え、開設の順番を判断し、清和地区、矢部地区、蘇陽地区の順で整備する方針としました。

11	Q4	教育委員会のパンフレットは、ツッコミどころが多いと思う為、内容、センス共に良いとは言えないと思う。今日、ここだけにすることをおススメします。 (説明会、30代、～6歳児保護者)	ご意見ありがとうございます。
12	Q3	義務教育学校設立に向けて、潤徳小・中島小への説明、承諾を得る必要があるが、期限をいつまで位に行えるのか。潤徳小は、あと2年をメドに閉校になる可能性がある。 (説明会、40代、小・中保護者)	矢部地区における義務教育学校整備の決定時期は、現時点で未定です。 既存小学校の閉校の是非については、各小学校の保護者や地域の意向を踏まえたうえで判断することになります。
13	Q4	校舎は新築ですか。矢部、蘇陽は予定はいつごろになるのか。 (説明会、40代、小・中保護者)	新築とするか、既存校舎の大規模改修とするかは、基本構想・基本計画の中で決定します。矢部地区、蘇陽地区の予定は、現時点で未定です。
14	Q2	義務教育学校ができれば全てOKのような発想はやめて欲しいと思う。小規模校にも大規模校にも義務教育学校にもメリット・デメリットもあると思う。だから、できるだけ、具体的に子ども達にとって良い学校になるように、抽象的な一般論ではなく、具体的な方策を考えて、提案してほしい。また、熊大の教授1人だけでなく、いろんな知識人(多様な考えを持つ方々)の話をたくさん聞いて、様々な角度から学校づくりをしてほしいと思う。 (説明会、50代、学校職員)	従来の小学校や中学校と比較すると、単独校をそれぞれ整備するより義務教育学校を整備した方が、メリットが大きいと判断しました。 義務教育学校における学校経営方針等は、今後、準備委員会の中で検討いただく予定です。
15	Q4	義務教育学校に反対しているわけではありません。せっかくつくるなら山都町ならではの本当に子ども達が大切にされる学校をつくってほしいです。教職員の数が確保できれば、子ども達に向き合うことが充実できるかどうかは？の部分もあります。ぜひ、代表校長だけでなく、教職員の意見も取り入れながら学校をつくってほしいです。 行事消化ではなく、本当に町の方々の意見を反映できるような説明会、取組みをお願いします。 (説明会、50代、学校職員)	教職員の数が増えれば、校務の平準化等により、教職員が子ども達に向き合う機会が増えることは確実かと思えます。 主体的な組織として準備委員会を想定していますが、詳細事項については、準備委員会に設置予定の部会の中で協議いただく予定です。教職員の意見については、部会の中でいただければと思えます。 準備委員会等の会議は、原則公開を考えており、傍聴者にも会議後に意見等をいただきたいと考えています。会議の内容や協議経過等については、随時、町HPや広報等を通じてお知らせします。
16	Q4	過疎化により子どもが減るので、地域に学校を残す手段として義務教育学校設立は仕方ないと思う。しかし、9年間、同じ集団で育つ事で、きつい思いをする子が増えると思うので、その事に一番配慮して頂きたい。 (説明会、60代～、一般)	同じ集団となるのは、各学年単学級編成の場合、現行の小学校、中学校でも同様です。義務教育学校とすることで、より多くの教職員が児童生徒に接する機会が増えますので、教育指導の充実を期待するところです。
17	Q4	令和9年度から清和地区からの開設には遅いように感じます。統合も検討されてはどうかと思えます。すでに生徒減少により複式学級が増えつつありますし、又、生徒だけでなく、生徒の減少により担任の先生の減少により先生方の負担も大きくなりつつあります。できましたら、できるだけ早く統合するか、早く開設され生徒や先生方の負担の軽減を望みます。 (資料配布、50代、学校職員)	12を参照
18	Q4	計画が生ぬるいと思います。清和開校がR9?その後、矢部・清和・蘇陽となると、蘇陽開校時には蘇陽地区に子どもがほとんどいなくなっている状況になっていると思います。3地区に新しい学校を開校しても、近い将来、子どもが少なくなり無駄になると思います。3地区に分ける必要があるでしょうか?将来の事を考えるならば近隣町との連携など大きな視点で考えなければいけないと思います。とにかく結論ありきではなく、もう少し将来を見据えて考えて頂きたい。そして、もっと早く山都町の全部の子どもが安心して学業が行えるようにしてください。また、後世に負の遺産をこれ以上残さないでください。 (資料配布、不明、不明)	現時点で判明している将来の推移等を踏まえて方針を示したものです。様々な調整や諸課題に対し早々に対応することは難しいと考えたところです。 清和地区の小中学校の老朽化対応は喫緊の課題でもあり、ご理解をお願いします。 近隣町との連携につきましては、非常に広域で集落が点在する本町の地勢や道路事情等を考慮すると難しいかと思慮するところですが、どのような連携を想定されているのかご教授ください。
19	Q3	矢部、清和、蘇陽で、だいたいの場所は決まっていますか。 (資料配布、30代、～6歳児・小保護者)	6を参照

20	Q4	<p>将来を考えた内容で、メリットも多いと思いました。しかし、どんどん子供の数も減っていくのに、新しく学校を整備しても、そこに通う子供たちは何人いるのだろうと思いました。少子化をどうするか。ということも同時に考えなければいけないんじゃないかと思います。</p> <p>(資料配布、30代、小学生保護者)</p>	<p>全国的な少子化のなか、過疎地である本町の少子化の改善は更に困難です。</p> <p>教育を始め地域の魅力化が何よりも重要ですし、それが行政の喫緊の課題でもあり、定住促進、産業振興、情報発信等に取組んでいます。しかし、行政だけでは解決しません。町民や関係者の皆様の個々や連携した取組み等を含め、全町一体となって進めることが肝要かと考えます。</p>
21	Q4	<p>子供の人数が減るのは待たないで、どんどん進めてほしいと思います。</p> <p>また、義務教育後の高校や就職への流れも、山都町で定着してもらえらるような取り組みを行なってもらいたいです。</p> <p>(資料配布、30代、～6歳児保護者)</p>	<p>矢部高校の魅力化は、町と共に関係者が知恵を出し合っておられます。就職に関しても、高校と事業所の連携が始まっています。多くの事業所が後継問題を始めとして事業継続に課題を抱えられており、地元企業等の魅力発信等によりマッチングが進めば、事業所の存続や定住にも繋がるものと考えます。業種によっては会社勤務でなくリモートワークを主とする経営体が現れ始めており、注視が必要です。</p>
22	Q2	<p>子どもたちが少なくなっても、山都町ならではの学校作りができると思う。また、少ないからこそ、子どもたち一人ひとりの個性を大切にしやすくなると思う。コロナ禍で、少数クラスの良さが評価されたと思うし、地方の良さが再確認された。不登校の子どもたちが行きたくなるような学校作りは、周りからの評価も得ることになり、移住者も増えてくるという期待もある。</p> <p>(説明会、60代～、一般)</p>	<p>少人数クラスは良い面もありますが、人間関係の固定化を避け集団での交わりを望む保護者の意向に即しない面もあります。</p> <p>児童生徒や保護者の満足度を相対的に向上させていくことが肝要かと思ひます。</p> <p>子ども達が行きたくなるような学校づくりは、現在も、将来にわたっても、しっかり取組む必要があり、学校と共に努めていきます。</p>
23	Q3	<p>不登校、障がいを負わされた子ども、勉強についていけない子どもたちのことをこれから、どう対応し考えていこうとしているか。</p> <p>(説明会、60代～、一般)</p>	<p>不登校対応について、学校と家庭との中間に位置する機関として「やまと教室」を設置し、学校や関係機関とも連携しながら就学、自立に繋がるよう取組んでいます。</p> <p>障がいを持つ児童生徒に対応する特別支援教育に関しては、共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育（障がいを理由に排除される子どもが生み出されないよう、学校生活の中で多様性の尊重等を強化するため、障がいのある者と障がいの無い者が共に学ぶ仕組み）を踏まえ、交流及び共同学習の推進を図ると共に、教職員の専門性の向上と支援体制の確立に努めています。</p> <p>学習自体に興味が無かったり、生活リズムが崩れ勉強についていけない子ども達もいるかと思ひます。各種メディアや通信機能が付随した家庭ゲーム機・スマホ等の普及により、家庭によっては学習時間が失われたり、十分な睡眠時間が取れず学校での学習にまで影響を与えているようです。まずは、生活習慣等に関し家庭で対応いただきたいことについて、保護者に対し随時啓発が行われており、保護者の関わりを期待します。</p> <p>学習の補完については、一例として夏季休業期間中に、中学3年生向けの地域未来塾を設置しており、多くの生徒が利用しています。</p>
24	Q4	<p>年々、人口が減少している山都町では今後の学校をどうしていくかは、これからの山都町が発展していくか、魅力的な町になるのか、大きな鍵。あらゆる可能性を秘めた子どもたちが、豊かな環境の中で個性を発揮し伸び伸びと育っていく教育であってほしいと思う。もっと、山都町民に声をかけ関心をもってもらい、これからの学校設立についての論議を重ねて、考えていきたい。</p> <p>(説明会、60代～、一般)</p>	<p>随時、情報を発信していきますので、それぞれ思いを巡らせていただきたいと思います。</p>

25	Q4	やはり、デメリットの部分はしっかりと対応できるよう、教職員の方々がちゃんと目を配ってくださる等していただけたらなと思います。私も子供の頃に統合を経験し、平成31年の矢部小学校のアンケート結果のような感想を持ちましたので、子供の数も減っていますし統合には賛成です。しかし、人間関係の問題は自分にも周りにも統合後に増えたなと感じました。完全に対応することはもちろん難しいと思いますが、一番心がデリケートな時期に9年間同じ場所に同じ人たちと過ごすというのは子どもによっては辛く感じる子どもも本当出てくると思います。それでも、子ども一人一人の個性が尊重される学校づくりをしていただけたらなと思います。 (資料配布、20代、～6歳児保護者)	ご意見ありがとうございます。
26	Q3	財源について スクールバスについて (資料配布、30代、小学生保護者)	財源は、積立、国補助を主に、残る部分を起債(借金)で賄うこととなります。 義務教育学校の開設に伴い、スクールバス路線の見直しは必要となります。
27	Q4	旧町村毎に義務教育学校1校ずつには大賛成だが、後に残る旧校舎の活用方法についても必ず同時に考えて欲しい。活用方法が見つからなければ、新校舎建設後すぐに解体すべき。 今回の件とは関係ないが、今のスクールバスに乗れる条件がゆるゆるすぎではないか。保護者が要望すればみんな乗れるようになっていくと聞きます。旧町村毎の基準も統一されないらしいし、しっかり統一してほしい。バスに乗る子どもより遠いところの子が歩いているという話も聞きます。保護者が要望すれば乗れるなら、全員乗せればどうですか?でないと、ちゃんと基準を守って歩かせている保護者や子どもがバカを見ませんか?本気で考えてください。 (資料配布、30代、小学生保護者)	整備後の校舎の在り方は非常に重要な事項だと承知しています。活用方法等についても考えていきますが、清和小、清和中のみを考える場合、老朽化やバリアフリー等の観点からすると、活用には困難が伴うことが考えられますが、解体するにしても高額な費用を要します。地元の意向も伺いながら検討を進めます。 スクールバスに関しては、町村合併時に統一した利用ルールを設定できておらず、曖昧な状況にあることは承知しています。体力面から見ると歩かせるべきですし、安全面から見ると乗車させるべきで、双方の意見があります。特に矢部地区においては全ての児童生徒を乗せる席の余裕は無く、全町統一した線引きが困難な状況です。義務教育学校の整備を機にルールの統一化に努めたいと考えています。
28	Q2	今後のスケジュール…清和地区の開設準備委員会が設置される、とのことですがどういうメンバーになるのか、住民の意見要望を聞く機会はあるのか気になる。それをどのくらいの期間で決めて建設等に入っていくのか。 (説明会、30代、～6歳児保護者)	清和地区の保育園、小学校、中学校の保護者から2名(なるべく男女となるよう要請)、小学校長、中学校長、主任児童委員、清和地区区長代表、各自治振興区からの選出者、学識経験者、その他矢部地区・蘇陽地区それぞれから選定する予定です。
29	Q3	今後の詳しいスケジュールが気になった (説明会、30代、～6歳児保護者)	基本構想・基本計画の中で、設置場所や施設規模等の概要を決定します。 来(令和5)年度以降、学校施設整備に係る部分は教育委員会事務局にて、学校経営等に係る協議を準備委員会にて進めていく形となります。
30	Q4	方針5の就学先を選べるというのが魅力的だなと思っている。三校案になった経緯も含め、それぞれが特色ある学校になってほしいし、それぞれが児童生徒を奪い合うではないが、交流をしつつ切磋琢磨するような関係になれば良いと思う。 それと、意見でもでていた長野の山村留学(のことだと思った)は、以前食農観光塾でグリーンウッドの代表の方をお呼びしており、交換留学についてぜひ、と話がでていたので、実現できたら面白いと思う。 (説明会、30代、～6歳児保護者)	交換留学については、学校経営等に係る協議の中で、特色ある授業等の一つとして検討いただきたいと思います。
31	Q2	義務教育学校の仕組みはわかりましたが、それを最大限生かして、子どもたちの豊かな成長の為にどんな特色を出すのかが分かりませんでした。 今後のスケジュールについても、20年30年後まで見越したものの、こうなったらこう、こうなったらこうというフローチャートのようなものがないと見通しが立ちません。 (説明会、60代～、一般)	学校の特色については、現在も各学校で目標を定めて教育活動を展開していますが、清和地区義務教育学校開設を契機として、学校経営等に係る部分として準備委員会の中で協議いただきます。 現時点で数十年先まで見越すのは困難ですので、その時の社会情勢に合った形で検討されるべきかと思います。施設の維持方針については、負の遺産とならないよう、十分検討する必要があります。

32	Q3	視察に行かれた学校の、仕組みや特色について (説明会、60代～、一般)	視察先は、高森町の高森東学園、産山村の産山学園、宮崎県美郷町の西郷義務教育学校です。仕組みや特色は、説明資料のとおりですが、詳細は当該学校のホームページ等をご覧ください。
33	Q4	ここでのアンケート結果や他地区での質問についても、回答いただける機会を作って欲しい。今回は具体的なことまで意見交換できませんでしたので、具体的なこと(例えば町全体のスケジュール、校則制服について、障害を持つ子への配慮について等)一つひとつ丁寧に意見交換会や公聴会等をやって欲しい。 (説明会、60代～、一般)	ご意見ありがとうございます。
34	Q3	大体わかりましたが、もっとたくさんの方に知ってもらいたいと思いました。山都町で義務教育学校の話が進められているということを初めて知りました。今日のパンフレットはちょっと堅くて難しいので、もっと簡単な概要版を学校や保育園を通して配布してもらったりしても良いのではと思いました。 (説明会、40代、中学生保護者)	町内の保育園、小学校、中学校に対して、A3両面版として調整したもののやアンケート用紙を配布し、説明会の開催が叶わなかった場合は、それぞれ保護者に配布していただいています。
35	Q4	参加者の方々からたくさんの意見に頷くばかりでした。まだ、これから詰めていく段階なので見えないことの方が多いのが現状ということも重々理解できます。ただ、たくさんの意見はある意味期待の裏返しでもあると思いますので、前向きに捉えていただいて、最後の方で意見があったようにたくさんの意見を聞く機会をもっていただきたいと思います。収集がつかない、切りがない、受け止めきれない…行政の立場として聞くことも辛いことかとは思いますが、聞いてもらう満足感というのもあると思いますし、行政の方が知らない現実もたくさんあります。 (説明会、40代、中学生保護者)	ご意見ありがとうございます。
36	Q4	義務教育学校になるということで9年間という長い学校生活になるためこれを機に良い先生が続けたいと思う教育環境にしてほしい。同和教育など古い教育はこれを機会になくして行ってほしい。歴史として知ることは必要だと思うが、過度な教育は不必要だと思う。 (説明会、30代、～6歳児保護者)	学校教育努力目標の中の重点努力目標の1つとして「徳育」(夢や希望を持ち、公共の精神を尊び、人権意識を高め、自己実現のための力の育成)を掲げています。また、同和教育を人権問題の重要な柱として捉え、様々な人権問題の解決のために、基本的認識を深め、実践的指導力を高め、差別意識の解消に向けた人権教育を推進することとしており、解決すべき現代の課題として、組織的且つ計画的に取り組んでいます。決して古い教育ではありません。世代交代が進んでいくからこそ、同和教育に継続的・積極的に取り組んでいく必要があります。
37	Q3	建設候補地や財源など知りたい。 (説明会、30代、小学生保護者)	6、26を参照
38	Q4	プールを室内型にして夏以外は一般利用可能にしてはどうか(コスト的に難しいかもですが) (説明会、30代、小学生保護者)	産山学園では、屋内型にして一般利用に付されています。ただし、一般利用化を図るためには、費用対効果の側面から、町民の利用やコスト面の双方から充分検討する必要があります。
39	Q4	義務教育学校準備委員会の保護者代表者は、選考が難しいと思います。 (説明会、40代、小学生保護者)	選考が難しいことは承知していますが、地域の学校として重要な施設であり、ご協力をお願いいたします。
40	Q4	スクールバスにより、児童の運動能力が低下している事実があり、その改善策として登校後に皆んなで歩いてると聞いたことがある。山都町としても、児童の運動能力についてしっかりと対策していただきたい。 (資料配布、20代、～6歳児保護者)	スクールバスの利用ルールの見直しに際しての憂慮事項の1つだと考えます。また、社会体育への参加の有無によって、運動能力の差が顕著になってくるものと思われ、学校等の取組みだけでなく、戸外での遊び等、保護者にも関心を持っていただければと思います。